

風癩疹

〔箋注倭名類聚抄〕癩原書風癩疹作風瘙隱疹生瘡則起下有隱疹二字

〔增補下學集〕支上ニカザボロシ風癩疹

〔倭訓栞〕前編二十八ほろし 倭名鈔に風癩疹をかきぼろしと訓せりほろしは痲子の轉音なり

通雅に今俗通以觸熱膚生細疹曰痲子見えたり

〔内科秘錄〕四癩癧 風疹 風搔

癩癧ハ外臺ニ出ヅ和名ヲカザホロシト言フ是モ雜氣ニ中リタルナリ宿疾ノヤウニナリテ二

度モ三度モ之ヲ患ヒ或ハ毎年其時節ニ至ルトキハ必ラズ發スルモノアリ蓋シ其資質癩疹ノ

邪ニ感ジ易キ者ニシテ決シテ内因病ニアラズ世醫或ハ徒ニ呼デ發斑ト爲スモノハ誤ナリ

〔下學集〕支上ニキビ胞癩病面之

〔增補下學集〕支上ニキビ面胞 胞癩同

〔醫心方〕四治面胞瘡方第十四

病源論云面胞者謂面上有風熱氣生胞或如米大亦如穀大白色者是也又云養生方云醉不可露臥

令人面發瘡和名爾支美

〔病名彙解〕六鼓 生氣通天論ニ勞汗シテ風ニアタレバ寒搏テ鼓ヲナス鬱スレバ乃チ座ス類註

ニ云形勞シ汗出テ坐臥風ニアタレバ寒氣コレニ薄液凝テ鼓ヲナス即粉刺ナリ若鬱シテ稍大

ナレバ乃チ小癩ヲナス是ヲ名テ座ト云鼓ハ支加切中原雅音ニ云酒鼓鼻也按ズルニ是俗ニ云

ニキビノコト歟又粉刺ト云リ故ニ面ニ生ズルヲ穀音嘴音瘡トイヒ鼻ニ生ズルヲ鼻鼓ト云リ

〔思誠堂筆記〕仁にきび

あなかたはとみゆるものは御はな、りけり、さきのかた少したりて、色づきたる、未摘花今按、和

名云、鼓鼻、野王案、鼓音砂、和名、邇、鼻上胞也、俗に石榴鼻といふ、これなりにきみは、同和名云、唐韻云、